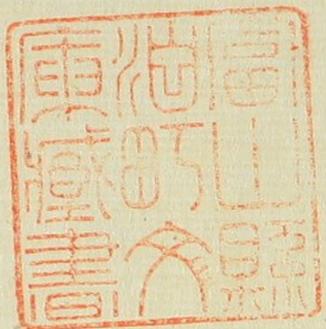


書首

源氏物語

権三  
四十六





日十一

河 才九卷名立りんくもとれ 権本むじやうの床よりまきつらぬ  
 花 宇治二哥の詞ととりて卷の名とせり 董十九歳の春より廿歳の妻までける也  
 十九の秋中納言よ成侍る也 竹川卷と同時也  
 細 董廿二の春より次の年廿三の妻までける也 花鳥異あり不可用之

○三月の廿日 細 宿願とていふ也  
 ○ころせよ 河 長谷寺のる在玉鬘巻

○中やとり 花 南都下四人ハ宇治と中宿と  
 是後この西葉るるも平太院とて由備のり有  
 細 中宿とせり也  
 孟 八宮のりとゆりくおて由出也

○うめと云へも 花 うりやと云里の名古今  
 哥は世とちら山身とちら橋とていふ心  
 とうていづ也 此は成の心とていふ心 哥元久  
 元年七月宇治西葉は時夜戀の題とて 定家  
 侍人の山と月とていふ心 里の名つとていふ  
 ちと乃床又名不秋哥は家隆姉 初霜のり  
 もあつていふ夜は里の名つとていふ衣が

○六条院より 花 河原花大匠殿公の別業宇治より  
 陽成院とていふ心 此は宇治とていふ心 宇治院とていふ心  
 宇多天皇朱雀院とていふ心 領行とていふ心 承平のり  
 る心 遊獵有きる心 李部王記のり 其後六条

二月乃廿日のがていふ心  
 せよまうては古き心  
 きれどががもていふ心  
 かりふらるるを宮居のり  
 ちのゆりもあはれ心  
 せはつかりていふ心  
 もろろ里のり心  
 うわらるる心  
 いとねあつていふ心  
 かしら心  
 かくつていふ心  
 うてたのり心







○山をよ哥 八宮也 弄 吹く 笛 吹く 笛

○世をうら 或按 白宮の村邊より

○とらこらの哥 白宮也

細 吹く 吹く 吹く 吹く

○中將ハ 細 薫也

○んせいら 河 河水 不 醉 醉 水 河水 亦 可用  
○河 毒 花 村上 記 應 和 元 年 同 三 月 上 日  
藤 宗 舟 樂 奏 醉 醉 水 舞 人 四 人 今 案 醉 醉  
亦 八 石 亦 世 舟 亦 其 例 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

○いんあ宮るれハ 弄 宇治院の事也

或按 八宮の事と官殿の事と又八宮の  
吹く吹く吹く吹く吹く吹く吹く吹く吹く

○こハ又或按 宇治院と八宮の住み所とをい  
くくくくく

○あり屏風 河 普通のありて張る屏風  
昔ハ山庄の古やうに調度は八定事也漆骨の  
片面とて細組とて同合する物也 遺屏風

○いーへらり 孟 昔より 樂器を何と置

○一越調の心は 橘人 花 橘人ハ 呂の哥也 呂ハ 双調律ハ  
平調也 双調の事ハ 多ハ 一越調と 渡りて 吹物也 一越  
調も 又 則 呂也 董 中將 橘人ハ 一越調也  
細心ハ 橘人ハ 呂哥也 双調の事と 一越調の渡り

山をよ 吹く 吹く 吹く 吹く  
世をうら 吹く 吹く 吹く 吹く  
とらこら 吹く 吹く 吹く 吹く  
中將ハ 吹く 吹く 吹く 吹く  
んせいら 吹く 吹く 吹く 吹く  
いんあ宮るれハ 吹く 吹く 吹く 吹く  
あり屏風 吹く 吹く 吹く 吹く  
こハ又或按 吹く 吹く 吹く 吹く  
いーへらり 吹く 吹く 吹く 吹く

いんあ宮るれハ 吹く 吹く 吹く 吹く  
あり屏風 吹く 吹く 吹く 吹く  
こハ又或按 吹く 吹く 吹く 吹く  
いーへらり 吹く 吹く 吹く 吹く  
一越調の心は 吹く 吹く 吹く 吹く  
平調也 吹く 吹く 吹く 吹く  
調も 吹く 吹く 吹く 吹く  
細心ハ 吹く 吹く 吹く 吹く





○うらひもさうな也 巴抄 草子地也  
○物さハうく 或抄 白宮也

○あつらへてし 花 後撰 あつらへてし  
○細 董のあつらへてし 文のあつらへてし  
○宮のあつらへてし 細 八宮也

○中へ心こめし 弄 弄まじりてあつらへ  
○ハ又我へ心こめし 弄 弄まじりてあつらへ

○うらひ人 巴抄 姫君遊と也

○万葉 黙然不有 又直しあつらへて云云  
○万葉 黙然不有 又直しあつらへて云云

○姫君ハ 細 みの君也

○春のつきくハ 花 後撰 山さし  
○山さしの花まじりての春れつきく 上東門院  
○ねいせきう 細 八宮の心也

○うらひもさうな也 弄 まじりてあつらへ

のもしあつらへてし 弄 まじりてあつらへ  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
がくくくくくくくくくくくくくくく  
やぶありありありありありありあり  
おがくくくくくくくくくくくくくく  
はひひひひひひひひひひひひひひひ  
はくくくくくくくくくくくくくくく  
ふもむもむもむもむもむもむもむも  
つみこむむむむむむむむむむむむ  
はくくくくくくくくくくくくくくく  
あつらへてし 弄 まじりてあつらへ

君ぞあつらへてし 弄 まじりてあつらへ  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくく  
よまま乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
かくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくく  
あつらへてし 弄 まじりてあつらへ  
がくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくく  
あつらへてし 弄 まじりてあつらへ







○とくくよ 細 男方の上手とて

○あつちやく 河内局

○とくくよハ 細 下はハきねえねとて心あう  
かきくよハ情とてくも也  
○うつさ巴秋 後撰 秋のよハ人とてあつちやく  
つとてとてとてとてのねとてとてとて

○心やま〜 或秋 心切らる時分引琴の  
音の初めらるうらうら〜さりのとて

○何とてとてとて 細 我はむとての上とてとてとて  
公男のせれとてとてのねとて

○このとてとて 孟 子の道也

○サハ〜 弄 女子ハ〜とてとて捨てとて  
心〜とてとて〜 或秋の余際く有也

○い〜 細 草子地也  
或秋 八宮の心中とて董のとてとてとて

秋の月よ秋家の内あつちやくのやう  
よま〜とてとてとてとてとてとてとて  
よ〜とてとてとてとてとてとてとて  
あ〜とてとてとてとてとてとてとて  
〜とてとてとてとてとてとてとて  
えわらとてとてとてとてとてとてとて  
の〜とてとてとてとてとてとてとて  
のま〜とてとてとてとてとてとてとて  
ま〜とてとてとてとてとてとてとて  
〜とてとてとてとてとてとてとて  
よ〜とてとてとてとてとてとてとて  
ま〜とてとてとてとてとてとてとて

あ〜とてとてとてとてとてとてとて  
つ〜とてとてとてとてとてとてとて  
か〜とてとてとてとてとてとてとて  
り〜とてとてとてとてとてとてとて  
あ〜とてとてとてとてとてとてとて  
と〜とてとてとてとてとてとてとて  
あ〜とてとてとてとてとてとてとて  
あ〜とてとてとてとてとてとてとて  
〜とてとてとてとてとてとてとて  
〜とてとてとてとてとてとてとて  
の〜とてとてとてとてとてとてとて  
と〜とてとてとてとてとてとてとて









相本

○ 或扱人よき  
○ 細 惟君

○ 或扱 八宮花後の

○ 八宮の

○ 細 捨て行ぬ  
○ 八宮の心世の人

あしひ

○ 孟 八宮の内親子の  
○ 細 境界縁の

○ 或扱 八宮の  
○ 八宮の

Handwritten text in a cursive style, likely representing the phonetic transcription of the text above. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style used in many Edo-period manuscripts.

相本

相本





つづきあり 細あさう者病いぬ  
○こころいひしや尺細あさうの初

○君さらの 細非君さらのこと

○いしゝるれハ孟かれくの縁あり物さ  
或扱別事也 生つころ宿目ハ各別のこと

○今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと

○八月廿日の 孟ハ宮の山いしゝるの時分也

あさうのいしゝるれハ孟かれくの縁あり物さ  
或扱別事也 生つころ宿目ハ各別のこと  
今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと  
八月廿日の 孟ハ宮の山いしゝるの時分也

○あり明の月 細此河津舟巻よりあり初のあり  
ういしゝる也

○さるこの 細 彼寺の方也

○あさうのいしゝるれハ孟かれくの縁あり物さ  
或扱別事也 生つころ宿目ハ各別のこと

○涙もろり 河史記曰 孝惠帝崩太后哭泣不下  
哭ハるるも涙落さる心也嘆の切なる時涙不下といふ

あさうのいしゝるれハ孟かれくの縁あり物さ  
或扱別事也 生つころ宿目ハ各別のこと  
今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと  
八月廿日の 孟ハ宮の山いしゝるの時分也











○泪の尻哥 大君也 心ハ明也  
河 左 右 音 伊勢物語真名本

○くらうさくえ 河 里 紙 服者の料紙也 くらう  
紙よりろの異つて 刊のくらう 無比類者也  
花くらうさ紙ハくひ色の紙とてし

○こころの山此 河 後 撰 又くらうさくえとてし  
ひしきあしとてし くらうさくえとてし  
盃 盃とよハる夜也とよ付て 催とてし くらう

○このくらうは 河 くらうのくらうひは くらうのくらうとてし  
水くらうとてし くらうとてし  
花 八雲の秘云さのくらうは 茶の生くら也  
弄くらとてし 水くらの哥又こころの山よ馬ハわれとてし  
の哥とてし くらう茶ハこころの山よとてし

○このくらうは 盃 くらうハ 中君のくらうとてし 大君  
のくらう也

○このくらうは 或 桜 大君中君のくらうとてし  
白官の心也

○まろとて 或 抄 廿房とての口也 返らぬとて 待のよ  
とて 起てぬとて 又返らぬとて 返らぬとて 也

○わづらとて 或 抄 草子也 也  
まろとて 弄 白官より 又中君とてし

泪の尻哥 大君也 心ハ明也  
河 左 右 音 伊勢物語真名本  
くらうさくえ 河 里 紙 服者の料紙也 くらう  
紙よりろの異つて 刊のくらう 無比類者也  
花くらうさ紙ハくひ色の紙とてし  
こころの山此 河 後 撰 又くらうさくえとてし  
ひしきあしとてし くらうさくえとてし  
盃 盃とよハる夜也とよ付て 催とてし くらう  
このくらうは 河 くらうのくらうひは くらうのくらうとてし  
水くらうとてし くらうとてし  
花 八雲の秘云さのくらうは 茶の生くら也  
弄くらとてし 水くらの哥又こころの山よ馬ハわれとてし  
の哥とてし くらう茶ハこころの山よとてし  
このくらうは 盃 くらうハ 中君のくらうとてし 大君  
のくらう也  
このくらうは 或 桜 大君中君のくらうとてし  
白官の心也  
まろとて 或 抄 廿房とての口也 返らぬとて 待のよ  
とて 起てぬとて 又返らぬとて 返らぬとて 也  
わづらとて 或 抄 草子也 也  
まろとて 弄 白官より 又中君とてし

泪の尻哥 大君也 心ハ明也  
河 左 右 音 伊勢物語真名本  
くらうさくえ 河 里 紙 服者の料紙也 くらう  
紙よりろの異つて 刊のくらう 無比類者也  
花くらうさ紙ハくひ色の紙とてし  
こころの山此 河 後 撰 又くらうさくえとてし  
ひしきあしとてし くらうさくえとてし  
盃 盃とよハる夜也とよ付て 催とてし くらう  
このくらうは 河 くらうのくらうひは くらうのくらうとてし  
水くらうとてし くらうとてし  
花 八雲の秘云さのくらうは 茶の生くら也  
弄くらとてし 水くらの哥又こころの山よ馬ハわれとてし  
の哥とてし くらう茶ハこころの山よとてし  
このくらうは 盃 くらうハ 中君のくらうとてし 大君  
のくらう也  
このくらうは 或 桜 大君中君のくらうとてし  
白官の心也  
まろとて 或 抄 廿房とての口也 返らぬとて 待のよ  
とて 起てぬとて 又返らぬとて 返らぬとて 也  
わづらとて 或 抄 草子也 也  
まろとて 弄 白官より 又中君とてし

わは君の手もと返りわらしよて又返りて  
くくくく

○おさうは奇 白宮也 花 後撰 一志とて  
そし人き朝霧は友ましくせり鹿よあわれと  
孟八官よこるわこまきまを哀もゆくやあま

○とらゝは花 姫君の返奇はまろこの鹿を  
一志よましくわつよつこくくく

細 ちひよハこもくもあまのうらみ  
○わまうらむも 芭蕉 此返奇之われハ情ハわが  
わめとて草子地よわしと姫君の心中也  
○こくく 或抄 八宮のゆき也

○うしろくさま 或抄 八宮の心もくさま  
くくく

○まろくさま 花 蔭相如く趙璧ハこくく  
くくく 玉のこくくハくくくくく  
盃一本のこくくハくくくく

○さくやうくく 或抄 白宮の姫君の心也

○こんとハ 細 白宮のハ文ハ也

○そのゆくく 或抄 白宮のゆくく  
以て返りてくくく

きりあまのわしたよまの  
てなりの

わがまよあまごらまの  
ねたまのまのまの  
わらゝはまのまの  
あまのまのまの  
うらまのまのまの  
よくくまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの

わがまのまのまの  
ねたまのまのまの  
わらゝのまのまの  
あまのまのまの  
うらまのまのまの  
よくくのまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの  
くくまのまの

権木

権木



○こころうしし孟 又しうさの身うししこと  
せらとて服中のけしん也

○こころハ花 そのこころハこころ  
弄 あやうくする心也 董の詞也

○月日の光ハ細 月日の光を我方の方より  
むくくしてあつた月日れこころうして  
いこころんこと

○ゆりうしう 孟 董の心は行方もう切よとて

○わさうめ 細 のぬるわさうめはわさうめ

○きんこ 細 さうぬくもの詞也

○ゆりうしと 或抄 姫君の心也 八宮のぬる  
わさうめはわさうめとて 湖月日へて愁嘆  
の心しわさうめは董のぬるうしとてぬる也

○じうる 弄 八宮の現存れ時う董の度く  
こころぬる也

○あつたぬし 芭 草子地こころぬるのこころ

○あつたぬし 芭 姫君の心中又八宮のぬる  
さうめは董のこころぬる也

○草子地也 或抄 物こころぬる也

うらやううらやうのひくうん  
ゆらんもつらうううううう  
もえこころうううううう  
ぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのうううううう月日の  
げんげんげんげんげんげん  
わさうめぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる

こころぬるぬるぬるぬるぬる  
えらぐぬるぬるぬるぬるぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる  
あつたぬしぬるぬるぬるぬる  
ゆりうのううううううぬる

○ちんぐ人の或扱 姫君の心也

○あつぼう目比を 細 八宮のまきまきとせいにゆうつ方  
なしてあつぼうひぼうと

○もよろひ 或扱 姫君の躰と董の心也

○くろく木丁 河 服者の調度也

○まてあつとん 巴扱 姫君達の躰

○かのぐー 或扱 琵琶の撥と月と招ひ時の  
る也

○色くろく番 董也 巴扱 浅茅の色のくろくと  
服者の袖とあひやうと

○色くろく神と奇 大君也 細 秋の末うれ也服の  
袖とあつやつとさう神はまきと董れとさう  
さう人

○くろく河 古今 衣とくろくは色人  
の泪玉のせきとさうと

○ひこしら 細 董の心也

○ニトノさ 或扱 弁君と姫君のくろくまきの  
外まきと

あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき

あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき  
あつねむきとくろくまき

維本

○ありうてわさきうこ 手拍木の物といひき  
いんげん人も

○いんげん人もし 細董の河也ほ氏よとこれ  
ふた也幻巻よ八董五歳也これほ氏の崩四ハ  
年へよる

○世中のよひ 或ぬ 威光のよも也

○うきうきや 孟八官といふやうきうきと

○うきうきや 孟八官遊去のよも也

○心くろくもく 細董君といふ

○ありうてわさきうこ 手董の河といひ 董君といふ  
ふた也幻巻よ八董五歳也これほ氏の崩四ハ  
年へよる

○うきうきや 孟八官といふやうきうきと  
花うきうてはやうきう心くろくや下よ此祠有河  
海の祝ありやう

○のいし 弄故八官の祠也

○のいし 弄故八官の祠也

うきうきやうこ 手拍木の物といひき  
いんげん人も  
いんげん人もし 細董の河也ほ氏よとこれ  
ふた也幻巻よ八董五歳也これほ氏の崩四ハ  
年へよる  
世中のよひ 或ぬ 威光のよも也  
うきうきや 孟八官といふやうきうきと  
うきうきや 孟八官遊去のよも也  
心くろくもく 細董君といふ  
ありうてわさきうこ 手董の河といひ 董君といふ  
ふた也幻巻よ八董五歳也これほ氏の崩四ハ  
年へよる  
うきうきや 孟八官といふやうきうきと  
花うきうてはやうきう心くろくや下よ此祠有河  
海の祝ありやう  
のいし 弄故八官の祠也  
のいし 弄故八官の祠也

手拍木

手拍木

○こころをいへば 弄董と柏木とをいふ

○あはれき巴抄 弄董と柏木とをいふ

○母君ハ弄董と柏木也 乳母の子也 八宮の方と弄董とをいふ

○こころをいへば 西国へくつりしうまの巻  
○ありしころ也  
○母君しうをいへば 細八宮の方 姫公と弄董とをいふ

○このころは弄董と大臣のころをいふ

○こころをいへば 或抄 弄董と柏木とをいふ

○こころをいへば 細柏木の昔をいふ也 姫君と弄董とをいふ

○中納言君ハ 細董の心也

このころは弄董と大臣のころをいふ  
ありしころ也  
母君しうをいへば 細八宮の方 姫公と弄董とをいふ  
こころをいへば 西国へくつりしうまの巻  
ありしころ也  
母君しうをいへば 細八宮の方 姫公と弄董とをいふ  
このころは弄董と大臣のころをいふ

このころは弄董と大臣のころをいふ  
ありしころ也  
母君しうをいへば 細八宮の方 姫公と弄董とをいふ  
こころをいへば 西国へくつりしうまの巻  
ありしころ也  
母君しうをいへば 細八宮の方 姫公と弄董とをいふ  
このころは弄董と大臣のころをいふ

○世とらうき世秋古人のさひひわれの姫君達  
よふらうきとらうきと

○又とらうき細きものさしと季とらうき  
るのひらまゝとらうきやうは我りのさしとらうき  
つらとらうき董の遠慮也

○世秋董の身上の存知り八宮(平人の密通の)  
をわつらうきとらうきとらうきとらうきとらうき

○とらうきとらうき河うらうきとらうきとらうきとらうき  
通とらうき也 細故宮まゝとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき

○とらうきとらうきの弄八宮のゆり判とらうき

○秋やハクくわう花三秋の中也  
世秋あう秋の中ス万うらうきとらうきとらうき

○例の人わらう 孟八宮のゆり判とらうき

○ゆり判とらうき 河内念誦具共

○うらうきとらうき 世秋僧とらうきとらうきとらうきとらうき

はらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
ひらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき

とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき  
とらうきとらうきとらうきとらうきとらうきとらうき



○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん  
○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん

○物おろし河つ井よ道つらうの  
万水父宮のお夕世の  
まうん



○西ノ山ノ細 故宮落髪のわきまありしと  
うらなひもあひしは今のさやうもまきま  
もあひしとあひし也

○君よきて奇河古今世はゆきいづこもまされ  
乃々の岩のろきららゆきまじしてん  
弄りも道を文字清濁兩説也兄ありて  
らるる奇也宮のうらやゆらうありの山も入り  
ゆるりもまされる心何とくハ入るとハわらうの  
何と入るとんくもやアゆき 細又説何とくハ  
入るとハ姫君の心もくもあひしとあひし共用也  
○あつ山の奇 細松の上れ雪は落てらるる

るれ又ゆきまらるの直消えし人の入りこころと  
うらなひもあひし也此奇伊勢大輔集ま松のくれや  
ゆきまじしてん 紫式部あつ山の松はゆきまじしてん  
我身せまゆきまじしてん 吾消やまじしてん  
の命まらぬれはまじしてん 此松の雪は作者の  
自奇と此物語は用らるる前四十四帖はまじしてん  
宇治はゆきまじしてん 此奇の上句并里の名と我身まじ  
はゆきまじしてん 新拾遺は入らるる兩首と殊に  
用らるるまじしてん

○ようーとんーま 或扱まらるる人々

○せいのりハ 細此香中の心は深切なるこ  
巴扱 姫君も哀とんくもあひし

○とんくハ 河服者の調度ハ每物黒色なり  
火桶まじしてん

あつ山の松はゆきまじしてん  
君よきて奇河古今世はゆきいづこもまされ  
乃々の岩のろきららゆきまじしてん  
弄りも道を文字清濁兩説也兄ありて  
らるる奇也宮のうらやゆらうありの山も入り  
ゆるりもまされる心何とくハ入るとハわらうの  
何と入るとんくもやアゆき 細又説何とくハ  
入るとハ姫君の心もくもあひしとあひし共用也  
○あつ山の奇 細松の上れ雪は落てらるる

あつ山の松はゆきまじしてん  
君よきて奇河古今世はゆきいづこもまされ  
乃々の岩のろきららゆきまじしてん  
弄りも道を文字清濁兩説也兄ありて  
らるる奇也宮のうらやゆらうありの山も入り  
ゆるりもまされる心何とくハ入るとハわらうの  
何と入るとんくもやアゆき 細又説何とくハ  
入るとハ姫君の心もくもあひしとあひし共用也  
○あつ山の奇 細松の上れ雪は落てらるる



○細董のしるし  
まづきつるやとのほり

○里のちる人河古今  
あつたはうらんの人のしるし

○細井川の里れちる人  
引奇我がちる人せしむ

○巴柳ちる人  
案内とせしむ

○何のちる人  
細何とせしむ

○細井川の里れちる人  
引奇我がちる人せしむ

○何のちる人  
細公界のちる董のしるし  
はよちる人のしるし  
終よちる人のしるし  
とわりかきく

○ちる人のしるし  
めつたは名をせしむ  
しあは立田川と云ふ也  
のちるやちる人立田の川れ水のちる

ちる人のしるし  
あつたはうらんの人のしるし  
引奇我がちる人せしむ  
案内とせしむ  
何のちる人  
細何とせしむ  
細井川の里れちる人  
引奇我がちる人せしむ  
巴柳ちる人  
案内とせしむ  
何のちる人  
細何とせしむ  
細井川の里れちる人  
引奇我がちる人せしむ  
終よちる人のしるし  
とわりかきく

ちる人のしるし  
あつたは名をせしむ  
しあは立田川と云ふ也  
のちるやちる人立田の川れ水のちる



あふくし

○はらの心 世柳 まる中君と白宮のうらみ  
移して大君の宇治よまきまを

○あまの心 世柳 白宮の中君へ  
あまの心 細 白宮中君よ音信ありしよ也

○あまの心 世柳 まる中君と白宮のうらみ  
移して大君の宇治よまきまを

○はらの心 世柳 まる中君と白宮のうらみ  
移して大君の宇治よまきまを

○あまの心 世柳 白宮の中君へ  
あまの心 細 白宮中君よ音信ありしよ也

はらまの心 世柳 まる中君と白宮のうらみ  
移して大君の宇治よまきまを  
あまの心 世柳 白宮の中君へ  
あまの心 細 白宮中君よ音信ありしよ也

あまの心 世柳 白宮の中君へ  
あまの心 細 白宮中君よ音信ありしよ也  
あまの心 世柳 白宮の中君へ  
あまの心 細 白宮中君よ音信ありしよ也

○よかんつら 或秋 世俗よとまきしるんときよ  
あき

○えんきもも 或秋 艶らししよとまきし

○うしとくハ 巴秋 董のよとまきし

○あつとりハ 巴秋 雅君のちよとまきし  
うしとくしるんときよ

○あつとり 河雲とつるんときよ 同事と凍雲  
合よき雪の詩多つてわ

○あつとり 細董の初也我が方と渡しと

○あつとり 孟入目 *man gwan*

○あつとり 孟山同 *man gwan*

○中君いひて 弄女房のわらわらよわわの中  
君とつるんときよ 君のまよとまきし 中君の  
よとまきし

あつとり 河雲とつるんときよ 同事と凍雲  
あつとり 細董の初也我が方と渡しと  
あつとり 孟入目 *man gwan*  
あつとり 孟山同 *man gwan*  
あつとり 弄女房のわらわらよわわの中  
あつとり 君とつるんときよ 君のまよとまきし 中君の  
あつとり 君のまよとまきし

あつとり 河雲とつるんときよ 同事と凍雲  
あつとり 細董の初也我が方と渡しと  
あつとり 孟入目 *man gwan*  
あつとり 孟山同 *man gwan*  
あつとり 弄女房のわらわらよわわの中  
あつとり 君とつるんときよ 君のまよとまきし 中君の  
あつとり 君のまよとまきし



ちのりりてあさるしくしとさうあねい  
弄此哥卷の名とせ

○ちのりりてあさるしくしとさうあねい 或抄 董の山庄宇治近不可有

○君もちのりりてあさるしくしとさうあねい 巴抄 董の山庄の人のまじりて  
とさうあねいさうし也

○老人よ 弄 弁のさる物ひひひんよあは  
はるす 細 弁君のさるつとさうあねい也

○あひせとさう 或抄 山庄の人よ被仰付也  
○年々さう 細 董廿三歳也

○汀のさうり 弄 姫君の心よさるつとさうあねい

○あひさるつとさう 弄 ちのりりてあさるしくしとさうあねい  
とせよ今まてあひさるつとさうあねい 観一と心よ

○雪とさうよ花 雪とさうよ袖はれつとさうあねい  
とせよのへよさうかつんきり中務集

○いのろ 河 紫 斎 精進 神とさうあねい  
とせよのへよさうかつんきり中務集

○さふのあさるしくし 細 姫君の心也

雑

りてあねいさうあねいさうあねい  
ふとさうりてあねいさうあねい  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集

あひさるつとさう 弄 ちのりりてあさるしくしとさうあねい  
とせよ今まてあひさるつとさうあねい 観一と心よ  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集  
とせよのへよさうかつんきり中務集

雑

○君より奇大君也 弄八官の事也必八官の  
ありはるまはわれねも奇の躰也  
細八官の在世もそゝるゆへにひきくいはひ  
わきまをきこ

○雪梅さし哥 中君也 花ちるるやふく思  
山よひしより入てぬせり旗人われれあやふ  
今来つらんやととしはるの草はつらわはら  
とゆへふはつらんやととしはる  
細 我々のわりはるはらふつらんやととしは  
るもるもる  
巴梅 八官あはるまはわれねも奇の躰也  
中納言とのりも 細 巴下草子地也

○元やまを河此巻の始はるるを  
ありてきろくといはる也

○君より奇大君也 弄八官の事也必八官の  
ありはるまはわれねも奇の躰也  
細八官の在世もそゝるゆへにひきくいはひ  
わきまをきこ  
○いとゆるり 孟 去年の春はるるといひ也  
○はてまた一哥 白宮也 細 去年の春はるるを  
乃と出春はるとえ(一)とて我々の中君と  
乃とやと 孟 白宮の中君(一)哥也  
○心とやして 或梅 白宮の我と心と  
○あつまる 或梅 ありてととんとあつと中君の  
さハあつまる(一)ととととととと  
○又ふあつ 細 ひく心はるまはわれねも奇の躰也

君より奇大君也  
弄八官の事也必八官の  
ありはるまはわれねも奇の躰也  
細八官の在世もそゝるゆへにひきくいはひ  
わきまをきこ

○雪梅さし哥 中君也 花ちるるやふく思  
山よひしより入てぬせり旗人われれあやふ  
今来つらんやととしはるの草はつらわはら  
とゆへふはつらんやととしはる  
細 我々のわりはるはらふつらんやととしは  
るもるもる  
巴梅 八官あはるまはわれねも奇の躰也  
中納言とのりも 細 巴下草子地也

○君より奇大君也 弄八官の事也必八官の  
ありはるまはわれねも奇の躰也  
細八官の在世もそゝるゆへにひきくいはひ  
わきまをきこ  
○いとゆるり 孟 去年の春はるるといひ也  
○はてまた一哥 白宮也 細 去年の春はるるを  
乃と出春はるとえ(一)とて我々の中君と  
乃とやと 孟 白宮の中君(一)哥也  
○心とやして 或梅 白宮の我と心と  
○あつまる 或梅 ありてととんとあつと中君の  
さハあつまる(一)ととととととと  
○又ふあつ 細 ひく心はるまはわれねも奇の躰也

○つづくは哥中君也 花母草のこの極し  
心わくは今年ハクリハヒカスルハヨソヨソ  
弁々もたつたつら花ハクリハヒカスルハヨソヨソ  
うへをいひてありてんと云心也 墨漬ハ眼者の家  
の心也  
○おんやうく 或按 中君のつぎの返り也  
○あしはらうしと 細白宮の心也

○せうしん 孟董と白宮のつぎの返り也

○わらわら 細白宮のわらわらと云ふれんが  
と云ハ董のつぎの返り也  
○いとうかかん 世按 いとうわらわらと云ふハ中  
立と云ふと云ふ

○心ようし 細白宮の返り也  
ハ心ようしの返り也

○あかしの 弁々露の六君と白宮と云ふ

○されといふも 或按 白宮の心也 六君ハ近き親  
類ありといふも 又露ハ露と云ふハ近き親  
類ハ心ようしの返り也 制道せむと云ふハ  
心ようしの返り也

○三条宮 万水 廿三宮の座不炎上也

つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは

つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは  
つづくはつづくはつづくはつづくはつづくは

○まゝやうやう 細 董のふも也わまうよとひのふり  
しる心もて大君ととらうらうらあつる也

○わさねとん 巴 椒 姫君の心とをまて心わらへ情  
らうらうらうらとわらへりやせん

○むーの心 或 椒 八宮よりふのふれ悲切と又知  
てうらうらとわらへりやせん

○俄とゆうて 細 童 宇治也

○わさねとん 河 復の目とわさねとん又わらう物と  
らうらうらとひのひまらうらうら

○さうらの或 椒 古宮のわらへりやせん

○さうらわしよ 或 椒 花宴巻よ此河わらう物  
る也 黙然不有の心也

○さうらわしよ 弄 わらうのわらう物也

雁六

さうらわしよとわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん

とわらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん  
わらへりやせんわらへりやせん

1176



用るが二合くさねよまひよりめの小腰引  
腰とてある也

○廿二宮を 花今上の内女明石中官の内腹也  
或抄 董の心とていふ人也  
○初の内より 弄 董の心とていふも有さるや

○又いふかて 弄 女の君也  
○うのこしハ 或抄 董の心とていふの障子也  
ホドとのまゝいふわづらとていふ人いふ也

いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ

○今とていふてよ 或抄 中君よりいふかてやう  
さういふ

○わらふは屏風と 細さういふ人の心と

○いふていふも 弄 董の心とていふ人いふ  
の心也

○いふていふも 巴按さういふ人いふ

○さういふていふも 何 鈍色の心とていふ人いふ也  
○あつていふも 万水 兄弟とていふも眼青よの髪也

いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ  
いふ人の心とていふ人いふ

権字

八十一



